

日産車体株式会社
日産車体九州株式会社

コーポレートレポート 2023



NISSAN
GROUP OF JAPAN - ASEAN

私たち日産車体は 信頼される企業として、独自性に溢れ、 お客さまに魅力ある質の高いクルマとサービスを、 タイムリーにお届けします。

日産車体は、1949年、鉄道車両および自動車の車体製作メーカーとしてスタートし、1951年より日産グループの一員として、神奈川県湘南地区および京都府宇治市においてその歩みを重ねてまいりました。

2000年には湘南地区に量産車種の生産を集約しました。そして、2007年には、将来にわたっての事業基盤を確立するため、新たに日産車体九州株式会社を設立し、2010年1月より、九州での新工場の稼働を開始いたしました。

日産車体では、湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点をもち、湘南工場では、LCV(Light Commercial Vehicle 小型商用車)の「AD」、「NV200パネット」やフレーム車の「パトロール(Y61)」など4車種を生産し、日産車体九州では、ミニバンの「エルグランド」、大型SUV(Sport Utility Vehicle・スポーツ用多目的車)の「アルマーダ」、そしてLCVの「キャラバン」などの5車種を生産しています。

LCV・フレーム車の開発・生産においては独自のノウハウを持ち、日産グループのLCV・フレーム車の開発・生産支援を担っています。

当社の主要事業は次の3つになります。

1つ目は、「商用車・プレミアムカー」です。

独自性の進化・深化により、ものづくり技術力・生産性の向上を図るとともに、商品の付加価値を高め利益と売上台数の拡大を図ります。

2つ目は、「特装車」です。

将来の成長性と高い収益性が見込める特装事業において、お客さまのニーズの多様化に迅速に対応することで事業拡大を図ります。

3つ目は、「サポート事業」です。

サービス部品生産やエンジニアリング受託業務、電動化対応を含む各種サポート事業について、生産量・業務量の拡大を図ります。

当社は2023年度からの中期経営計画において、この3つの主要事業の拡大を図ります。

「商用車とプレミアムカー、特装車、サポート事業で社会に貢献し、お客さまから頼られる唯一無二の存在となる。」を目指す姿とし、この目指す姿を実現するために3つの柱を据えました。

1つ目の柱は、「持続可能な企業基盤」です。

「持続可能な企業基盤」では、2050年のカーボンニュートラルを実現します。

そして誰もが働きがいを持って安心して働くことができる企業・風土を全員で実現します。

2つ目の柱は、「魅力ある商品の創出」です。

「魅力ある商品の創出」では、多様化するお客さまのニーズにタイムリーに応え、お客さまがワクワクする商品と価値を創出します。

3つ目の柱は、「独自性の進化と深化」です。

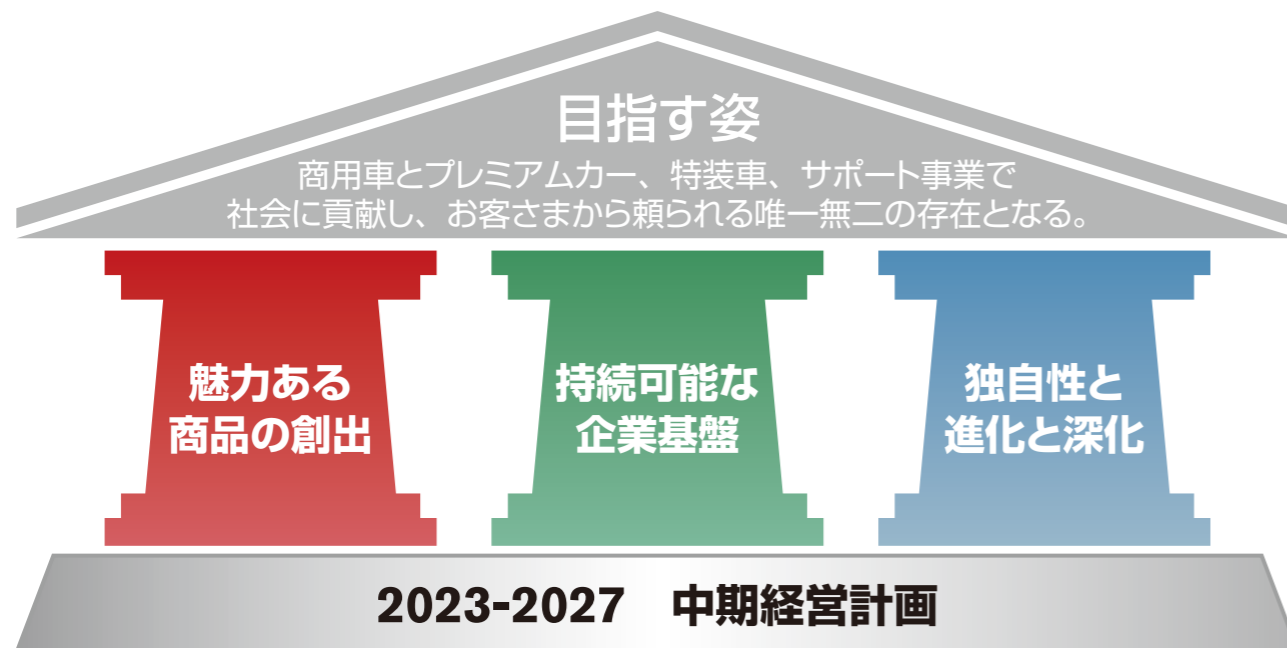
「独自性の進化と深化」では、独自性溢れる技術・アイデアにより、革新性、効率性、フレキシビリティを探究し続けます。引き続き、当社の強みである開発から生産まで一貫したものづくり体制の強化と、法令遵守やコーポレートガバナンス向上に取り組んでいくことで、ステークホルダーの皆さまからの信頼を高められるよう、努めてまいります。

2023年6月



代表取締役 兼 社長執行役員

吉村 東彦



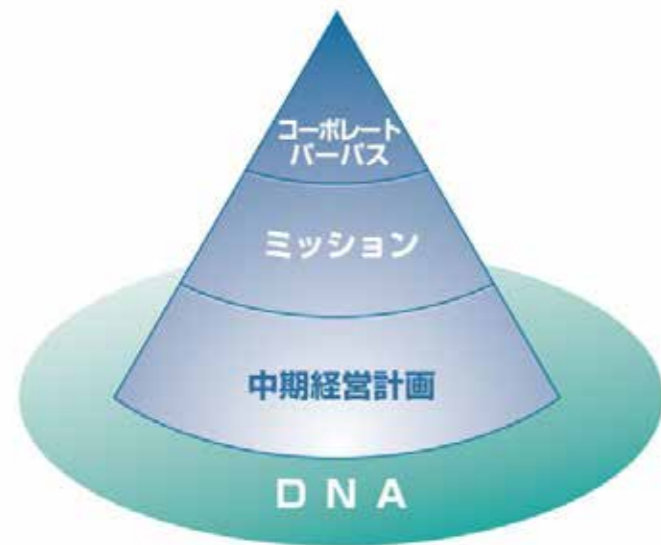
CONTENTS	
2 - 3	社長メッセージ
4 - 5	中長期的価値創造
6 - 7	主要事業
8 - 9	「持続可能な企業基盤」 2050年のカーボンニュートラルを実現します。 誰もが働きがいをもって安心して働くことができる 企業・風土を全員で実現します
10 - 11	「魅力ある商品の創出」 多様化するお客さまのニーズにタイムリーに応え、 お客さまがワクワクする商品と価値を創出します
12 - 13	「独自性の進化と深化」 独自性あふれる技術・アイデアにより、 革新性、効率性、フレキシビリティを探究し続けます
14 - 17	サステナビリティ
18 - 19	日産車体の概要
20 - 21	日産車体九州の概要
22 - 23	歴史
24 - 25	財務データ・関係会社の概要
26	生産車一覧

中長期的価値創造

日産車体は、

「持続可能な企業基盤」「魅力ある商品の創出」「独自性の進化と深化」を3つの柱に、「商用車とプレミアムカー、特装車、サポート事業で社会に貢献し、お客さまから頼られる唯一無二の存在となる」ことを目指します。

コーポレートパーパス・ミッション等



コーポレートパーパス(存在意義)

人々の生活を豊かに。イノベーションをドライブし続ける。

ミッション(使命)

私達日産車体は信頼される企業として、独自性に溢れ、お客さまに魅力ある質の高いクルマとサービスを、タイムリーにお届けします。

中期経営計画

「2023-2027 中期経営計画」
目指す姿を「商用車とプレミアムカー、特装車、サポート事業で社会に貢献し、お客さまから頼られる唯一無二の存在となる」と定め、「持続可能な企業基盤」、「魅力ある商品の創出」、「独自性の進化と深化」、この3つの重点課題に取り組みます。

DNA

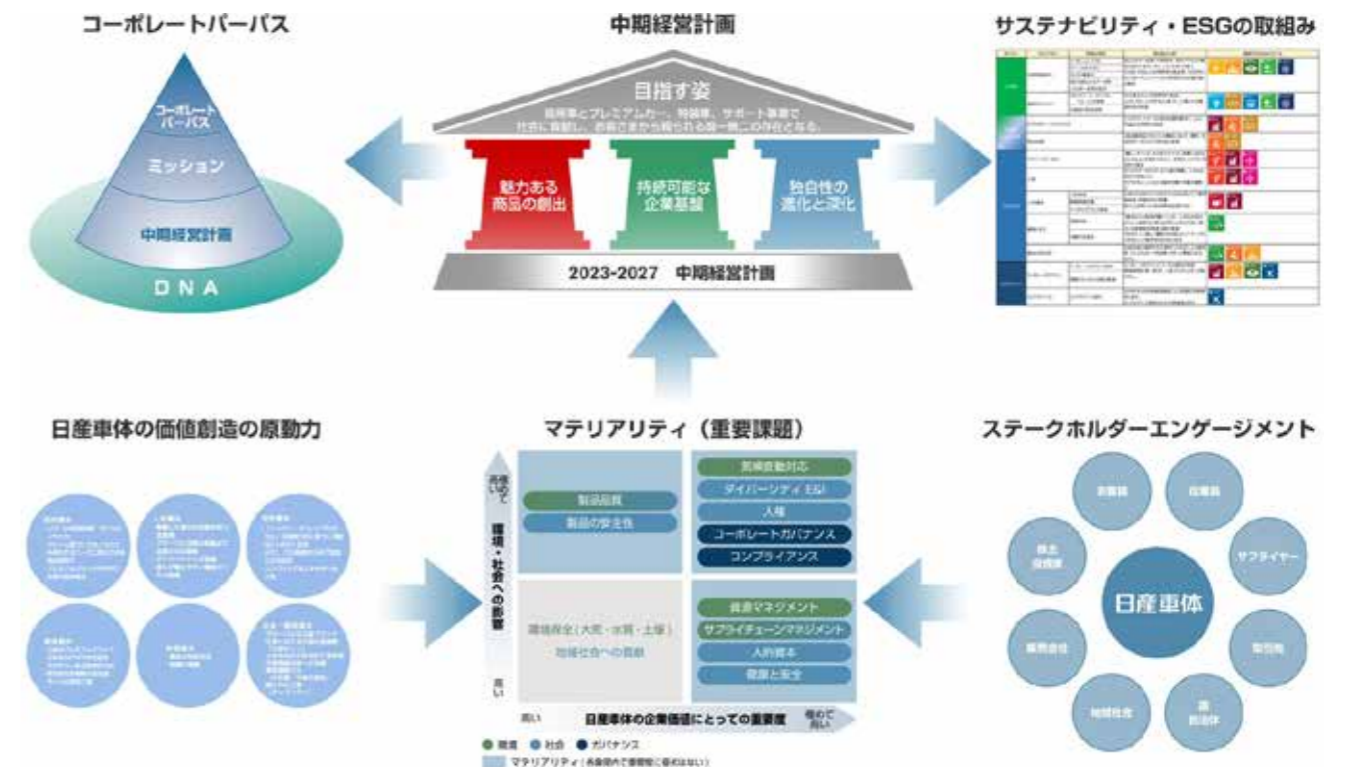
他のやらぬことを、やる
情熱的 革新的 挑戦者 機動性

日産車体の価値創造の原動力



中長期的価値創造プロセス

ステークホルダーからの期待や社会的要請を踏まえ、当社が最優先に取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定し2023-2027中期経営計画に折込みました。サステナビリティ・ESGの取組みを進めます。このことにより当社のミッション、コーポレートパーパスを実現します。



主要事業

日産車体は、開発から生産までのものづくり機能を持つ完成車メーカーです。

日産車体は、日産自動車から委託を受け、開発から生産までを担う完成車メーカーです。

新型車のコンセプト・デザインに基づき、設計、試作、実験といった開発業務から、工場での生産ライン設計や設備導入などの生産準備、プレス、車体溶接、塗装、車両組立、品質保証までを行っています。

■ 開発

バーチャル解析技術などによる量産前の高い生産性確認やテストコースでの試験を重ね、「設計変更ゼロ」の効率的な設計に取り組んでいます。

■ 生産技術

ルノー・日産アライアンス生産方式(APW)^{※1}を取り入れ、最新の技術、設備を導入し高品質で生産性の高い工場をつくり上げます。

■ 生産

湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点では、生産効率を高めるとともに、環境にやさしく、高品質なクルマづくりを実現しています。

■ 完成車メーカーがつくる 特装車

日産車体では、1台ずつ用途の違う特装車の受注生産にも力を入れています。特装はグループ会社のオートワークス京都が担当。開発から生産までの一貫体制でお客様のニーズにあった特装車をお届けしています。

■ 培ったノウハウを活かした 開発・生産サポート

日産車体は、国内拠点でのクルマづくりだけでなく、LCVの開発や、グローバルに展開する日産自動車の工場での新型車の立上げ、新たな工場、生産ラインの準備・構築などもサポートしています。

※1 アライアンス生産方式
AllianceProductionWay=APW。品質の高いクルマを効率的に生産し、短い納期でお客様にお届けする生産方式

売上高

サポート事業

生産量・業務量の拡大

特装車

お客さまニーズへの対応

商用車 プレミアムカー

商品の付加価値向上

技術力・生産性向上

2023

2027

日産車体は2023年度からの中期経営計画において、以下の主要事業の拡大を図ります。

1.商用車・プレミアムカー

独自性の進化・深化により、ものづくり技術力・生産性の向上を図るとともに、商品の付加価値を高め利益と売上台数の拡大を図ります。

2.特装車

将来の成長性と高い収益性が見込める特装事業において、お客さまのニーズの多様化に迅速に対応することで事業拡大を図ります。

3.サポート事業^{※2}

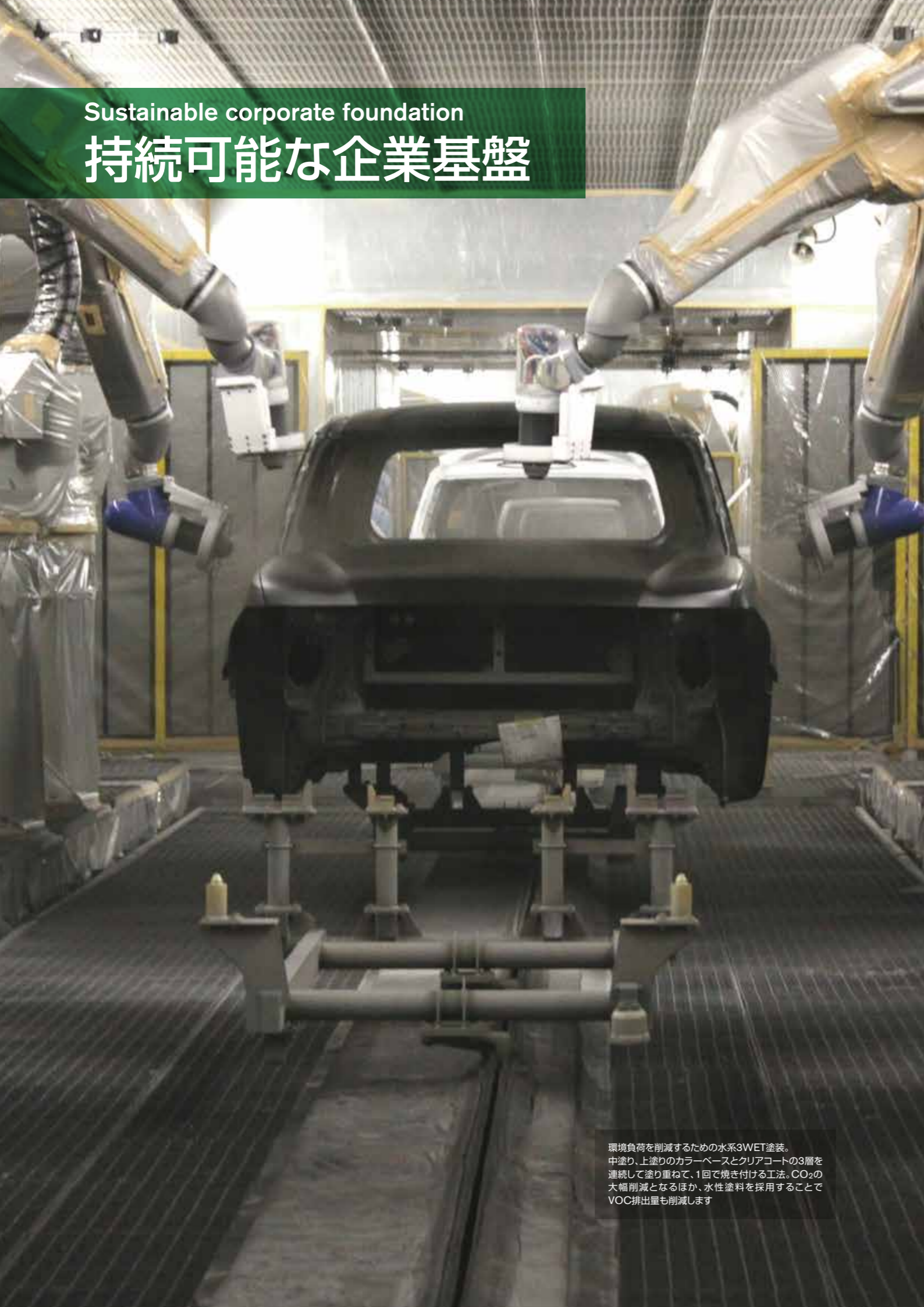
サービス部品生産やエンジニアリング受託業務、電動化対応を含む各種サポート事業について、生産量・業務量の拡大を図ります。

※2 サポート事業
サービス部品、エンジニアリング受託、試作、型・治具、設備、その他



Sustainable corporate foundation

持続可能な企業基盤



環境負荷を削減するための水系3WET塗装。
中塗り、上塗りのカラーベースとクリアコート3層を連続して塗り重ねて、1回で焼き付ける工法。CO₂の大幅削減となるほか、水性塗料を採用することでVOC排出量も削減します

2050年のカーボンニュートラルを実現します。 誰もが働きがいをもって安心して働くことができる 企業・風土を全員で実現します

日産車体は、日産グループの一員として、利益ある成長を遂げながら、社会や環境、自然と共生できる企業を目指します。

環境対応では、日産グループの掲げる環境理念のもと、当社が策定した環境理念に従い、環境方針を定め、あらゆる観点から取り組みの推進に努めています。特に自動車産業の使命として、環境にやさしいクルマづくりなどを積極的に進め、今後も継続して再生可能エネルギーの活用、設備の電動化、省エネルギー化に取り組みます。

また、多様な価値観の共存と、誰もが働きやすい職場づくりのため、ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン、職場環境整備、安全、健康といった活動を推進します。そして、社員を「人材」ではなく「人財」と考え、社員を育てることを重要な経営戦略の一つとし、人材育成にも積極的に取り組みます。

さらに、企業のさまざまな取り組みを通して地域との共生を図ります。地域社会との交流を積極的に行い、地域での福祉活動や災害の復興などのボランティア、小学生を対象とした学習支援活動を継続して実施していきます。



2050年のカーボンニュートラル実現のために、さまざまな取り組みを推進しています



誰もが働きやすい職場づくりのため、ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョンに取り組んでいます

開かれた企業として地域貢献活動に取り組んでいます。



工場見学



企業祭



地域の美化活動への参加



津波避難場所指定の本社ビル

日産車体は地域社会との交流を積極的に行い、湘南工場では地元平塚を中心に年間2万人を超える小学生の社会科見学を受け入れています。また地域住民の方までご参加いただける企業祭の開催や、地域イベントへの協賛・出展など地域に根ざしたさまざまな活動を継続して行っています。



実車の代わりに大型画面を使った塗装技能の習熟訓練。時代に即した教育・訓練を導入しています



人を大切にする働き方改革を推進。「プラチナくるみん^{※1}」や、「健康経営優良法人 一ホワイト 500^{—※2}」にも認定、顕彰されています

※1: 次世代育成支援対策推進法第13条に基づく認定
※2: 経済産業省と日本健康会議が共同で進める「健康経営優良法人認定制度」認定

Creation of appealing products

魅力ある商品の創出



中東で絶大な人気を誇る「パトロール」の70周年記念モデル(湾岸地域限定)。ラグジュアリーなデザイン、上級の快適さ、安全性と楽しさを高める先進技術を備え、「パトロール」らしいパワーとプレミアム品質を具現化しました

多様化するお客さまのニーズにタイムリーに応え、お客さまがわくわくする商品と価値を創出します

日産車体は、商用車・プレミアムカーのプロフェッショナルとして、お客さまから褒められる商品を提供します。そして、特装車両の充実、および多様化するニーズにタイムリーにお応えする新商品をお客さまに提案します。

豊富なバリエーションを展開する「キャラバン」は、発売以来、先進装備、燃費性能、デザイン、グレードの追加など、継続した商品力強化で、国内のみならず海外でも高く評価されています。

中東湾岸諸国を中心に、アフリカやASEAN地域でも台数を伸ばす「パトロール(Y61)、(Y62)」「パトロール ピックアップ」は、現地のお客さまや販売会社とのダイレクトコミュニケーションを図ることで、新たなニーズの発掘を進めています。また、プレミアムブランドのINFINITI「QX80」や北米向けSUV「アルマーダ」は、世界的な市場調査、現地の自動車ジャーナリスト協会などから多数の栄誉をいただいています。

ほかにも積雪や凍結の多い地域に向けた「NV200バネット」の4WD設定など、市場要望に幅広く対応し、着実に台数の拡大につなげています。今後も市場調査に基づくタイムリーな製品企画、迅速な商品化と積極的な販売支援、さらにサービス部品や、電動化を含むCASE*等のビジネスの拡大を図り、多様なニーズに応える当社独自の活動を一層強化していきます。

*CASE: Connected, Autonomous, Shared & Services, Electric



車中泊のコンセプトカーである「キャラバン MYROOM CONCEPT」の室内。2023年度に「キャラバンMYROOM」として発売



「NV200バネット」がベースのモバイルオフィスカー「MOOW(ムーウ)」。後部座席スペースで快適にテレワーク

お客さまのニーズに「素早く」「正確に」応える「キャラバン」特装車



「キャラバン」特装車は、先進の安全性、機能性、利便性など、お客さまのニーズに「素早く」「正確に」応えながら、豊富なバリエーションを展開しています。特装はグループ会社のオートワークス京都が担い、「日産パラメディック」などの救急・医療関係車両、消防関係車両、幼児通園専用車(置き去り防止装置付)など多岐にわたっています。



日産車体九州で生産するINFINITI「QX80」。厳しい品質基準をクリアした工場のみが生産を許されます



「NV200バネット」マルチベッドワゴン2トーン。親しみやすい見た目で東京モーターショーでも人気を博しました

Evolution and deepening of uniqueness 独自性の進化と深化



ミニバンの「エルグランド」やフレーム車の「パトロール(Y62)」、LCV(小型商用車)の「キャラバン」などの5車種を効率的に生産する日産車体九州の生産ライン

独自性あふれる技術・アイデアにより、 革新性、効率性、フレキシビリティを探究し続けます

日産車体には、湘南工場と日産車体九州の2つの生産拠点があります。2つの工場は「ルノー・日産アライアンス生産方式(APW)」を取り入れ、また、基本構造の異なる車種を一つのラインでつくる多車種混流生産^{※1}を行っています。工場を支えるのがものづくり一貫体制です。当社には設計や試作車の制作を行う開発部門、生産設備を設計・製作する工機部門、あらゆる面からクルマをチェックする実験設備があり、開発から生産、品質管理までを一貫で行っています。このものづくり一貫体制を活かし、湘南工場、日産車体九州ともに生産台数に応じた効率的な生産体制を追求し、多品種少量商品の最適な生産技術・工法を構築します。

また、当社は商用車・プレミアムカー、特装車のものづくりにおいて、グローバル日産の中で中心的な役割を担っています。

開発部門では新世代フレーム車を中心とするものづくり技術の強化や先進ITS^{※2}技術の適用などを進め、また、生産部門では「人にやさしいライン」を目指し、当社独自のものづくりプロセスに焦点を当てた計画的な取り組みを進めています。

日産車体では、これまで培ってきた固有技術をさらに磨き、商用車・プレミアムカー、特装車のものづくりにおいて、頼られる存在を目指します。

※1 多車種混流生産
モノコック車(枠組みとボディが一体で構成されるクルマ。乗用車、商用バン)とフレーム車(頑丈なフレームの上にボディを載せて組み付けるクルマ。SUV、トラックなど)など複数車種を同一のラインで生産する
※2 ITS
Intelligent Transport Systems 高度道路交通システム



コンパクトなラインでの柔軟なものづくりが特徴の湘南工場。多品種少量生産の最適な工法を追及し続けています



技術開発に欠かせない思考を学ぶQFD(品質機能展開)技術発表会。開発部門だけでなく、生産・管理部門からも参加

創造する喜びと技術開発への意欲へ！ 新製品・新技術展示会 & アイデアコンテスト



新製品・新技術展示会



アイデアコンテスト

創造する喜びと技術開発への意欲につなげようと、日産車体では、年に1度、新製品・新技術展示会 & アイデアコンテストが社内で開催されます。新製品・新技術展示会は、開発した技術の情報共有の場として欠かせないイベントです。アイデアコンテストには日産車体グループ社員なら誰でも応募ができ、部門・年齢を問わず多くの社員が参加。アイデアが実車に採用されることもあります。



フレームの設計検討用CAE解析画像。新世代フレーム車など当社固有のものづくり技術をさらに深化



ロングドライブでも疲れにくい「キャラバン」のスパイナルサポート付きシート。商用車で初採用

サステナビリティ

サステナビリティに関する考え方

当社及び日産車体九州株式会社はサステナビリティに関する事項から、環境・社会・従業員・人権の尊重を経営課題と位置づけ、2023-2027中期経営計画における柱の一つに「持続可能な企業基盤」を掲げております。この「持続可能な企業基盤」では、主に、2050年におけるカーボンニュートラルの実現、誰もが働きがいを持って安心して働くことができる企業・風土の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

マテリアリティ (重要課題)

企業の持続可能な成長とともに、グローバルな環境・社会の課題に対してESGの取り組みを通じて持続可能な社会の実現とSDGsへの貢献を目的に、抽出した13項目のうち当社が最優先に取り組むべきマテリアリティ (重要課題)として、11項目を特定しました。ダブル・マテリアリティの考え方に基づき「環境・社会への影響」と「自社の企業価値にとっての重要度」の2軸でマトリックスに整理しました。

当社の取り組みとSDGsとのつながり

日産車体グループの価値観・様々な取り組みは、SDGs(持続可能な開発目標)にもつながっています。



STEP	検討課題の洗い出し	各種ガイドラインや社会の動向、SDGs等から検討すべき課題を抽出
STEP 1	検討課題の洗い出し	各種ガイドラインや社会の動向、SDGs等から検討すべき課題を抽出
STEP 2	重要課題の特定	洗い出した課題をサステナビリティ視点(環境・社会・ガバナンス)で分類・整理
STEP 3	マテリアリティの優先度整理	環境・社会への影響と当社の企業価値にとっての重要度の2軸でマトリックスを作成
STEP 4	マテリアリティの特定	執行役員会議での論議・承認を経て取締役会へ報告

マテリアリティ (重要課題) 検討のプロセス

各マテリアリティ(重要課題)における取り組みと貢献するSDGsのゴール

カテゴリ	マテリアリティ	取組み項目	取組み方針	貢献するSDGsのゴール
E) 環境	気候変動対応	カーボンニュートラル	省エネルギー設備への更新等、既存アイテムの確実な実行に加え、クリーンエネルギーの導入、CASEに対応した技術開発の推進等、2050年におけるカーボンニュートラルの実現のための諸活動の推進	7, 11, 13, 15, 17
		クリーンな排出ガス		
クルマの電動化				
再生可能エネルギー活用 エネルギー効率の追求				
E) 環境	資源マネジメント	3R(リデュース、リサイクル、リユース)の推進	3Rを基本とした車両開発の推進。ニッサングリーンプログラムに基づく、工場での水資源利用の削減	6, 12, 14, 15, 17
		水資源の有効活用		
E) 環境 / S) 社会性	サプライチェーンマネジメント		ビジネスパートナーとの相互信頼を基本に、ともに利益ある持続的な成長	8, 9, 12
	製品品質		「高品質保証プロセス」の構築に向けた、開発、生産部門一体となった取り組み推進	9, 12
S) 社会性	ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン		「働く人すべてが、その能力を十分に発揮できる会社となること」を基本方針とし、多様性・公平性・受容性を推進	5, 8, 10
	人権		全てのステークホルダーの人権を尊重し、いかなる差別も容認しないサプライチェーンにおける強制労働や児童労働防止	5, 8, 10
	人的資本	人財育成	社員と会社がともに成長することを目指した人事評価制度・研修体系の整備 困りごとと改善による従業員満足度の向上	4, 8
		職場環境改善 ワークライフバランス推進		
	健康と安全	健康経営	「健全な心と身体が備わってこそ、人は生き生きと安心して誠実な仕事ができる」の全社方針に基づいた健康保持増進活動の推進 「安全で人に優しい職場」を目指したハード・ソフトの両面からの職場環境改善の推進	3
労働安全衛生				
	製品の安全性		先進技術の適用や社会要件への対応による商用車・プレミアムカー・特装車・サポート事業の安全性向上	3, 9, 11
G) ガバナンス	コーポレートガバナンス	コーポレートガバナンス強化	コーポレートガバナンス・コードの適切な実践と内部統制システムの整備 事業継続計画(BCP)に基づくセキュリティ対策の向上	8, 11, 13, 16
		リスクマネジメント強化		
	コンプライアンス		行動規範の策定及び周知・徹底、社内外からの内部通報制度による問題の早期発見と是正、コンプライアンス委員会での対策審議と実行	16

サステナビリティ

環境

環境への取り組みでは、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）による提言に基づき、気候変動に関わるガバナンス及びリスクマネジメント体制の構築、気候変動シナリオに基づくリスクと機会・対応策の検討を進めております。今後、認識したリスクと機会への対応策を進捗させ、「持続可能な企業基盤」を実現する取り組みを推進してまいります。

日産車体(株)・日産車体九州(株) 環境方針

2050年カーボンニュートラル達成に向けて従業員1人1人が環境意識を持ち改善に取り組むこと

1. 環境法令及び、県及び市・町条例、その他の要求事項を遵守すること。
2. 以下の環境保全対策に取り組むこと。
 - 1) 二酸化炭素の排出量低減を目的とした、工場の生産設備及び事業所におけるエネルギーの効率的な使用
 - 2) 廃棄物の適正管理と削減及び資源循環の向上
 - 3) 環境汚染に繋がる事態の未然防止
3. 燃費、排ガス、リサイクルなど車が環境に及ぼす影響を考慮した車両の設計開発を行うこと。
4. 地域の共生・調和を大切にす企業風土を醸成すると共に、積極的な情報開示と地域とのコミュニケーションに取り組むこと。

社会

人的資本

企業の成長・発展の原動力になるのは従業員です。そこで当社グループでは、従業員を「人材」ではなく「人財」と考えます。働く従業員は何よりの財産と考え、社会や環境、自然と共生できる企業を目指し人財の育成・教育に努めています。

多様な価値観を持つ人たちがいきいきと活躍することで企業の力を最大限に発揮し持続的な成長を維持することができます。

当社では人的資本に関する重要事項を社長及び専務執行役員からなる会議で論議し、執行役員会議に必要な提案を行い決定しています。ダイバーシティ、女性活躍、長

5. 環境パフォーマンスをより高く達成する為に、環境マネジメントシステムを継続的に改善向上すること。

日産グループ環境理念 人とクルマと自然の共生

日産車体環境理念

当社は環境保全に対する重要性を認識し、人から社会、自然にやさしいクルマづくりに努め、地域環境の保全と豊かな社会の発展に貢献します。



日産車体(株)ISO14001認証登録証

時間労働、休暇取得等に関してはKPIを設定し進捗を確認し、適宜、取締役会にも報告しています。またリソース不足による業務への影響等のリスクと対応については、リスクマネジメント委員会で論議しその結果を取締役会へ報告しています。

人権尊重

当社及び日産車体九州株式会社は、適用される法律や慣例、企業の規則を遵守することが事業活動を行う上での基本であると考え、すべてのステークホルダーの人権が尊重されること、ならびに当社の従業員が最高の倫理基準に基づいて行動することが不可欠であると

認識しています。

当社及び日産車体九州株式会社は、人種、国籍、性別、宗教、障がい、年齢、出身、性自認、性的指向、その他の理由に基づくいかなる差別もせず、さらにはサプライチェーンにおける強制労働や児童労働といった人権侵害も容認していません。

バリューチェーンマネジメント

■責任ある調達－調達基本方針

ビジネスパートナーとの相互信頼を基本に、ともに利益ある持続的な成長を目指しています。われわれは自社の要望のみを主張するのではなく、常に対等な立場から、サプライヤーの皆さまの意見や提案に耳を傾け、競争の激しい自動車業界において、ともに切磋琢磨し合うパートナーとして、ベストプラクティスを導き出す協力関係の維持・強化に努めています。

■品質管理－品質保証の考え方と取り組み

クルマの品質に対する「お客さま」の要求は、近年、著しく高まっています。当社ではお客さまを第一に考え、お客様の視点で品質に関する課題を明確にして、「高品質保証プロセス」の構築を目指した活動に、開発、生産部門が一丸となって取り組んでいます。

ガバナンス

企業価値を継続的に向上させるために、経営陣の説明責任を明確にし、株主をはじめとするすべてのステークホルダーに向けた適時適切な情報開示を行うこと及び内部統制システムの整備により、業務の適正と経営

コミュニティ

社会貢献活動として、義援金・復興ボランティアなどの災害支援、小学生社会科工場見学の受け入れ、オープンデーの開催などを行っています。ほかにも文化の保護・振興を目的とした団体や行事への参画・協賛をしています。



多様な価値観を持つ人たちがいきいきと活躍できる職場へ



の透明性を維持することが重要であると考えています。当社は、コーポレートガバナンス・コードの各原則を踏まえて、コーポレートガバナンスの一層の充実を図っていきます。

コンプライアンス

コンプライアンス(法令等の遵守)については、会社の持続的成長と中長期的な企業価値向上に直結する問題として、取り組みを強化しています。その一環として、社内外の窓口情報提供を可能とする内部通報制度を導入し、問題の早期発見と是正に努めています。特に行動規範に抵触するとと思われる事項の報告を受けた場合は、直ちに当社の「コンプライアンス委員会」もしくは当社グループ会社の「コンプライアンス委員会」において速やかに対策を審議し実行に移します。なお、「コンプライアンス委員会」の活動は、毎月執行役員会議に報告を行っています。

リスクマネジメント

当社及び当社グループ会社は、事業の継続を阻害する事項や、ステークホルダーの安全・安心を脅かすリスクをいち早く察知・評価して必要な対策を検討・実行することにより、発生の未然防止に努めるとともに、万一発生した場合の被害の最小化や再発防止に努めています。リスク管理の推進にあたって、当社取締役社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、具体的対策を講じるとともに、その進捗を継続的に管理しています。特に、当社の主要なリスクである環境・品質・安全等については、それぞれの専門委員会や会議を定期的開催するとともに規程・基準・マニュアル等を整備し、その教育等を通じて周知・徹底に取り組んでいます。

日産車体株式会社の概要

開発から生産までのものづくり機能を持つ日産車体

当社には、「開発」から「生産」、「品質保証」までを一貫して行うために、主要な3つの拠点があります。神奈川県平塚市堤町の「本社・湘南工場」と、平塚市大神の「テクノセンター」および、秦野市の「秦野事業所」を

中心とした開発部門です。私たちは互いに連携を取り合いながら、お客さまにご満足いただける商品を提供するために、日々努力しています。



本社・湘南工場

本社機能と車体溶接、塗装、組立などの「工場」、および物流基地からなる「生産」部門を擁する、当社の最大拠点です。



テクノセンター

設計、試作車の製作などを行う当社「開発」部門の中心であり、生産設備を設計・製作する「工機」部門の拠点でもあります。



秦野事業所

テストコースや実験設備があり、車体の強度、耐久性など、クルマをあらゆる面からチェックする厳しいテストを行っています。

会社データ

社名 日産車体株式会社
 創業 1941年7月1日
 設立 1949年4月1日
 資本金 79億4百万円
 従業員数 1,698名（2023年3月31日現在）
 事業内容 各自動車の開発から品質保証まで
 U R L <https://www.nissan-shatai.co.jp>

主な事業所所在地

- 本社・湘南工場
〒254-8610 神奈川県平塚市堤町2番1号
電話：0463-21-8001
- テクノセンター（開発部門）
〒254-0012 神奈川県平塚市大神三丁目6番1号
電話：0463-21-8305
- 秦野事業所
〒259-1304 神奈川県秦野市堀山下233番地
電話：0463-87-2972

役員

取締役

代表取締役	吉村 東彦
取締役	小滝 晋
取締役	矢部 雅之
取締役	中村 卓也
取締役(独立・社外)	大平 靖之
取締役(独立・社外)	品田 英明

監査役

常勤監査役	青地 潔
監査役(独立・社外)	伊藤 智則
監査役(独立・社外)	金治 伸隆

執行役員

社長執行役員	吉村 東彦	理事	工藤 太
専務執行役員	小滝 晋	理事	遠藤 栄緒
専務執行役員	矢部 雅之	理事	鈴木 拓也
専務執行役員	中村 卓也	理事	高山 涉
常務執行役員	中西 弘幸	理事	上野 啓之
常務執行役員	渡辺 昌也	理事	市川 雄二
常務執行役員	鈴木 涉		
常務執行役員	佐藤 曜佐		

カンパニー コンプライアンス・オフィサー

牛込 正明

日産車体九州株式会社の概要

INFINITIブランドの生産を許されている日産車体九州

2010年1月に本格稼働した日産車体九州は、グローバル日産のINFINITIブランドの生産を許されている工場です。多くの自動車・部品メーカーが進出し、また目覚ましい発展を続けるアジア地域との物流メリットが大きい北九州地区に立地しています。

日産車体九州は、日産自動車九州工場内に位置し、車体館、塗装館、組立館、そして日産車体九州の本社機能を持つ事務棟から成り立っています。

工場はルノー・日産アライアンス生産方式（APW）を取り入れ、INFINITIブランドをはじめとする高級車の品質に対応し、徹底した効率化によって、トップレベルに短縮された生産リードタイムを誇っています。

また、コンパクトカーから大型高級ミニバンまで生産可能な多車種混流生産ラインと人と環境にやさしい工場を特長としています。



ロボットによるドアの自動組み付け工程（車体）



ロボットによる塗装面の品質チェック（塗装）



助力装置を使った重量部品の組み付け（組立）



ファイナル検査工程の四輪加振機



車体館

ローラーヘミングラインの導入などにより精度の高い車体骨格をつくります。また、ロボットによるボンネットやドアといった重量部品の自動組み付け、AGVで車体や部品を運ぶなど、フレキシブルでコンパクトな生産ラインを特長としています。



塗装館

新塗装技術である3WET塗装により、環境への対応と高級車へ適用ができる塗装品質を実現しました。さらに、工場内のクリーン化や自動外観検査装置の採用などにより、高品質な塗装を実現しています。



組立館

フレーム車とモノコック車の混流が可能な進化した車両組立ラインを持ち、ファイナル工程で全車を加振試験するなど、高級車にふさわしい高い品質を実現しています。また、作業者の負担を軽減する助力装置を採用するなど、人にやさしい工場となっています。

会社データ

社名	日産車体九州株式会社
設立	2007年5月10日
資本金	10百万円（日産車体株出資比率100%）
従業員数	1,104名（2023年3月31日現在）
事業内容	自動車およびその部分品の製造・販売
URL	https://www.nissan-shatai.co.jp/nissan-shatai-kyushu

事業所所在地

■ 本社
〒800-0321 福岡県京都市郡刈田町新浜町1番地3
電話：093-434-9645

役員

取締役

代表取締役 社長	吉村 東彦
専務取締役	中村 卓也
取締役 工場長	遠藤 栄緒
取締役	上野 啓之
取締役	高山 涉
取締役	東 俊明

監査役

監査役	佐藤 曜佐
監査役	青地 潔

歴史

2022	12	大和インベスター・リレーションズ「インターネットIR表彰 優秀賞」、日興アイ・アール「全上場企業ホームページ 充実度ランキング 最優秀サイト」受賞。12年連続ダブル受賞			
2021	06	オートワークス京都での車両生産終了、コンバージョン事業に特化			
2019	07	パトロール(Y62)2020年モデル生産開始			
2018	11	パラメディック(E26)発表			
2016	06	北米向けSUV「新型アルマーダ」生産開始			
2015	06	日産の新世代タクシー「NV200タクシー(M20)」量産開始			
2014	03	新本館の竣工式を実施、湘南地区の再編を完了			
2013	07	湘南工場第1地区土地の譲渡を決定			
2012	12	第4地区の生産車を第2地区へ集約し湘南工場の車両生産体制の再編を完了			
	05	NV350キャラバン(E26)生産開始			
	02	湘南工場第1地区での車両生産を終了			
2011	05	パトロール ピックアップ(UY61)生産開始			
	05	当社が開発したNV200、ニューヨーク市の次世代タクシーに選定			
	03	アトラス F24生産開始			
2010	12	NV200パネットタクシー発売			
	12	クエスト(RE52)生産開始			
	11	日産車体が開発し、日産車体九州(株)が採用した新塗装技術「3-WET工法」が「日経地球環境技術賞 優秀賞」を受賞			
	07	エルグランド(E52)生産開始			
	04	INFINITI QX56(Z62)(現QX80)生産開始			
	01	パトロール(Y62)生産開始			
	01	「日産車体九州(株)」稼働開始			
2009	05	NV200パネット(M20)生産開始			
	04	「日産車体九州(株)」竣工			
2008	05	サガミ・メンテナンス(株)を「日産車体エンジニアリング(株)」に社名変更			
	04	「日産車体マニュファクチャリング(株)」を設立			
2007	11	(財)日本科学技術連盟から日本品質奨励賞、品質革新賞受賞			
	10	生産累計1,500万台達成			
	05	「日産車体九州(株)」を設立			
2006	12	AD/ADエキスパート(VY12)生産開始			
	01	(社)環境情報科学センターからPRTR優秀賞、審査員特別賞受賞			
2005	11	ウイングロード(Y12)生産開始			
	05	セレナ(C25)生産開始			
2004	11	平成16年度 地球温暖化防止活動環境大臣表彰受賞			
	04	湘南工場、秦野事業所、京都分室国際品質基準ISO9001:2000認証へ更新			
2002	12	INFINITI FX35/45(S50)(北米向け)生産開始			
	05	エルグランド(E51)生産開始			
2001	04	キャラバン(E25)生産開始			
	04	(株)オートワークス京都を設立しマイクロバスの生産を移管			
1999	12	商品開発部門国際環境基準ISO14001認証を取得			
	10	秦野事業所に5,800tトランスファープレス導入			
	05	ウイングロード(Y11)生産開始			
	04	創立50周年を迎える			
	02	シベリアン(W41)生産開始			
1998	11	プレーリー リバティ(M12)生産開始			
	08	アベニール(W11)生産開始			
	01	湘南・京都工場国際環境基準ISO14001認証を取得			
1997	10	サファリ(Y61)生産開始			
	05	エルグランド(E50)生産開始			
	01	ダットサントラック(D22)生産開始			
1996	08	3D-CADシステム導入			
1995	04	湘南・京都工場国際品質基準ISO9002認証を取得			
1993	07	クルー(K30)生産開始			
1992	06	生産累計1,000万台達成			
1991	06	セドリックセダン(Y31)生産開始			
1990	12	資本金79億400万円となる			
1989	07	フェアレディZ(Z32)生産開始			
	01	エスカルゴ(G20)生産開始			
1985	03	フェアレディシリーズ累計輸出台数100万台達成			
1984	02	フェアレディZ生産累計100万台達成			
1983	09	フェアレディZ(Z31)生産開始			
1982	08	プレーリー(M10)生産開始			
	07	シベリアン(W40)生産開始			
1980	08	生産累計500万台達成			
1978	11	秦野事業所開設			
	08	フェアレディZ(S130)生産開始			
	03	フェアレディZ生産累計50万台達成			
1972	12	キャラバン(E20)生産開始			
1971	06	日産車体(株)と改称			
1970	12	資本金48億円に増資			
	04	生産累計100万台達成			
1969	10	フェアレディZ(S30)生産開始			
	03	京都新工場完成			
1965	06	平塚第2地区新工場完成			
1963	09	フェアレディ(SP310)生産開始			
1962	11	資本金15億5,000万円に逐次増資			
	01	日産車体工機(株)と改称			
1961	10	株式を東京・大阪証券取引所第一部に上場			
1960	11	キャプオールマイクロバス(GC140)生産開始(京都工場)			
	02	全長115mのシャシコンベアライン稼働			
1959	10	資本金3億3,000万円に増資			
1956	04	ダットサンピックアップ(U122)生産開始(京都工場)			
1951	09	ニッサンパトロール(4W60)生産開始(平塚工場)			
	06	日産自動車(株)と提携			
1949	04	新日国工業(株)設立、資本金1億円、鉄道車両および自動車車体製作の事業を継承			
1947	07	わが国初の超大型トレーラーバス(T11B25)完成			
	05	戦災復旧電車、都電(6000)第1号完成(平塚製作所)			
1946	11	バスポデー第1号車完成			
	02	日国工業(株)と改称、鉄道車両および自動車車体製作に転換			
1941	07	日本航空工業(株)(昭和12年5月創立、当初資本金300万円)と国際工業(株)(昭和14年11月創立、資本金300万円)が合併し、日本国際航空工業(株)設立、資本金3,600万円、航空機製作			
1937	05	日本航空工業(株)設立(資本金300万円)			

財務データ

数値は連結データ*を記載しています。
(百万円未満切捨て)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高	362,869	215,359	307,521
営業利益又は営業損失(△)	483	△3,538	4,390
経常利益又は経常損失(△)	1,973	△2,541	5,118
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	1,917	△2,217	3,883

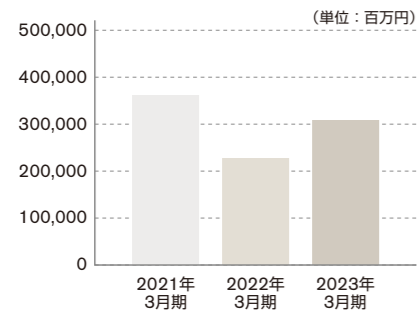
(単位：百万円)

■ 売上台数

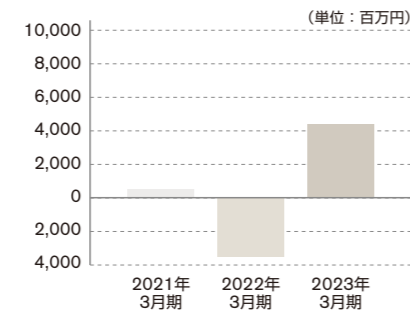
	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
乗用車	60,784	56,826	85,436
商用車	65,520	49,090	45,421
小型バス	8,106	7,859	11,126
計	134,410	113,775	141,983

(単位：台)

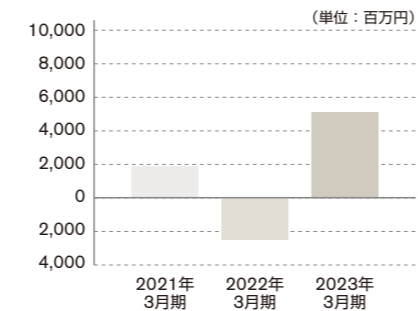
■ 売上高



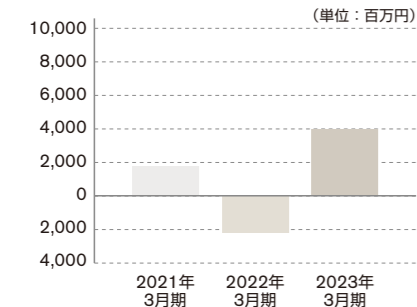
■ 営業利益又は営業損失



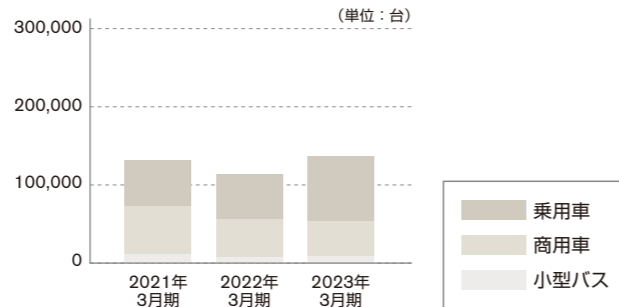
■ 経常利益又は経常損失



■ 親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失



■ 売上台数



* 記載した数値は、連結子会社6社(日産車体九州㈱、日産車体マニファクチュアリング㈱、日産車体エンジニアリング㈱、㈱オートワークス京都、日産車体コンピュータサービス㈱、㈱プロスタッフ)を含みます。

関係会社の概要

日産車体マニファクチュアリング株式会社

日産車体のプレス部品の製造。

社名	日産車体マニファクチュアリング株式会社	従業員数	219名(2023年3月31日現在)
URL	http://ns-m.jp	事業内容	自動車部品の製造
設立	1956年10月31日	本社所在地	〒254-0021 神奈川県平塚市長瀬2番15号
資本金	4億32百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0463-21-8510
代表者	代表取締役 社長 梶井 亮		

日産車体エンジニアリング株式会社

日産車体および日産車体九州の設備保全と物流。

社名	日産車体エンジニアリング株式会社	従業員数	306名(2023年3月31日現在)
URL	http://www.ns-eng.jp	事業内容	1. 生産設備、動力設備の企画・設計・製作・施工 2. 生産設備、動力設備の維持管理 3. 工場内物流サービス業務 4. 物流機器・リチウム電池関連製品の製造・販売
設立	1986年8月1日	本社所在地	〒254-0027 神奈川県平塚市堤町4-4
資本金	40百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0463-20-5372
代表者	代表取締役 社長 高石 春彦		

株式会社 オートワークス京都

働くクルマの架装。

社名	株式会社オートワークス京都	従業員数	201名(2023年3月31日現在)
URL	https://www.awk.co.jp	事業内容	働くクルマの架装
設立	2001年3月12日	本社所在地	〒611-0033 京都府宇治市大久保町西ノ端1番地1
資本金	480百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0774-46-7063
代表者	代表取締役 社長 内海 嘉則		

日産車体コンピュータサービス株式会社

情報システム構築、保守運用サービス等を提供する総合的なコンピュータサービス。

社名	日産車体コンピュータサービス株式会社	従業員数	241名(2023年3月31日現在)
URL	https://www.ncs-net.co.jp	事業内容	1. アプリケーションシステム開発 2. システム保守・運用
設立	1987年1月1日	本社所在地	〒254-0042 神奈川県平塚市明石町2番20号
資本金	100百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0463-22-7760
代表者	代表取締役 社長 森 猛		

株式会社 プロスタッフ

人材派遣から職業・人材紹介および各種アウトソーシング。

社名	株式会社プロスタッフ	従業員数	182名(2023年3月31日現在)
URL	http://www.pro-staff.co.jp	事業内容	1. 一般労働者派遣業 2. 有料職業紹介事業 3. アウトソーシング
設立	1987年8月1日	本社所在地	〒254-0031 神奈川県平塚市天沼9-10 日産車体天沼ビル1F
資本金	90百万円(日産車体㈱出資比率 100%)	TEL	0463-23-7750
代表者	代表取締役 社長 小林 弘和		

生産車

湘南工場



NV200
VANETTE

NV200パネット



AD

AD



PATROL

パトロール：Y61



PATROL PICKUP

パトロールピックアップ

日産車体九州



QX80

QX80



PATROL

パトロール：Y62



ARMADA

アルマーダ



ELGRAND

エルグランド



CARAVAN

キャラバン

オートワークス京都

※株式会社オートワークス京都は、パラメディック(高規格救急車)など救急・医療関係車両、消防関係車両、幼稚園バス、公共応急作業車両など働くクルマの架装を行っている日産車体株式会社のグループ会社です。



救急・医療関係車両



消防関係車両



幼稚園バス



公共応急作業車両